

南京都

お葬式 家族葬
公益社
 プライイトホール

0120
 004-200

京都総局
 〒604-8101
 中京区御池通柳馬場角
 ☎ 075(211)3351
 fax (211)8339
 mail:kyoto@asahi.com

学研都市支局
 〒610-0334
 京田辺市田辺中央6-3-1
 近鉄新田辺西ビル8階
 ☎ 0774(63)3888
 fax (63)3850

宇治支局
 ☎ 0774(44)1670
 fax (44)1672

購読のお申し込み
 配達お問い合わせ
 0120-33-0843
 (7:00~21:00)

広告のご用は
 075(254)8211
 折り込みは
 075(602)8451

子ども視点 心癒やす

宇治小倉新聞

アジール舎の10年 上



「こぼるるの家」と、(左から)アジール舎の「子どもフリースペースすぷりんぐ」館長の原田康信さん、亀口公一さん、誠子さん。宇治市榎島町

JR宇治駅から北へ約1^{km}、宇治市榎島町の住宅街に「NPO法人アジール舎 ころぼるるの家」の看板がかかった2階建ての建

アジール舎は2007年、亀口公一さん(67)が設立した。亀口さんは公立の療育施設で施設長を務める

家族で支援 思いひとつ

など、障害者や児童の支援に32年間かかわってきた。そのなかで、子どもたちが目に見えないところで傷ついているのを感じていた。何らかの形で子どもたちを支援する事業ができないか……。それが立ちあげのきっかけだ。

茶

05年4月に、娘夫婦が宇治市五ヶ庄で地域の憩いの場となるコミュニティカフェ「アジールカフェ」を始めた。「アジール」は、「慢すことのできない場所」を意味するギリシャ語が語源。亀口さんは「与えられた課題に自由に取り組む場」との意味を込めた。カフェでアジール舎の設立総会を開き、「アジール心理発達相談室」を開設した。

小学校教師だった妻の誠子さん(66)もアジールカフェ

エができたところに早期退職し、カフェの2階で1対1の学習指導「アジール親子塾」を始めた。家族の思いがこの場所でひとつになった。

茶

ただ、子どもたちの支援の場となる物件探しは難航した。07年暮れから08年にかけてやっとめどがたち、同年4月、いまの建物で、発達障害児らの通所施設「児童デイころぼるる」を始めた。

「当時、ある意味ではどこにもなかった『子どもファースト』の観点で療育をする施設にしよう。そこからはいろんなことが生まれてくるだろうと思った」と亀口さん。アジール舎の事業が拡大してきたいまも、「子どもの視点」をいちばん大切にしている。

(小山塚)